

各位

会社名 株式会社 アスタリスク
代表者名 代表取締役執行役員社長 鈴木規之
(コード番号:6522 東証グロース)
問合せ先 取締役執行役員管理統括室長 太田尚友
ir@asx.co.jp

アスタリスク、ブラウザから業務機器を制御する新技術を開発

～OSや機器の違いを吸収し、Webアプリからバーコード・RFID・プリンタ等を操作（特許出願済）～

株式会社アスタリスク（本社：大阪市、代表取締役執行役員社長：鈴木 規之、以下「アスタリスク」）は、一般的な Web ブラウザから業務用ハードウェアを制御できる新技術を開発したことを発表いたします。

本技術は、WebSocket 通信技術を活用し、Chrome や Safari などの標準ブラウザから外付けの業務機器を操作できる仕組みです。

スマートデバイス上で動作する軽量なコントロールアプリを 1 つ導入するだけで、ブラウザや他のアプリケーションから業務機器を共通のインターフェースで制御できるアーキテクチャとなっており、特許出願済みです。

このコントロールアプリが、OS や接続機器の違いを吸収することで、Web アプリケーションからは共通のプログラムで業務機器を利用することが可能になります。



ブラウザから業務機器を制御する新技術を開発の概要図 ※上記はイメージ画像

1. 開発背景について

近年、企業システムはクラウド化が進み、多くの業務が Web ブラウザベースのアプリケーションへと移行しております。

しかし、バーコードリーダーや RFID リーダー、プリンタなどの業務用ハードウェアを利用する場合、

- ・ SDK を用いた専用アプリの開発
- ・ OS ごとの個別対応
- ・ 機器ごとのドライバ対応

などが必要となり、Web システムだけでは機器を直接制御できないという制約がありました。

また、iOS・Android などの OS 差や、接続される業務機器の SDK 等の違いにより、アプリケーション開発が複雑になるという課題もありました。

2. 新技術の概要について

アスタリスクが開発した技術では、スマートデバイス上で動作するコントロールアプリと WebSocket 通信を組み合わせることで、Web ブラウザから業務機器を制御する仕組みを実現しました。

このコントロールアプリが

- ・ OS の違い (iOS・Android など)
- ・ 接続機器の違い
- ・ 通信インターフェースの違い

を吸収するため、Web アプリケーション側は共通のインターフェースで機器を操作することができます。

これにより、バーコードリーダー、RFID リーダー、プリンタなどの業務機器を、OS や機器の違いを意識することなく Web アプリから利用することが可能になります。

3. Web アプリ開発の大幅な簡素化

本技術により、企業は、「Web システム + スマートデバイス + 業務機器」をシンプルに連携させた業務端末を構築できるようになります。

また、Web アプリケーションは

- ・ iOS
- ・ Android
- ・ 機器メーカーの違い

を意識する必要がなく、共通のプログラムで開発することが可能になります。

これにより、

- ・ 専用アプリ開発の削減
- ・ システム導入スピード向上
- ・ 開発コスト削減
- ・ クラウドシステムとの高い親和性

などのメリットが期待されます。

4. 今後の展開について

本技術は今後、アスタリスクの機器製品に順次搭載していく予定です。

また、本技術は業務機器制御の共通基盤として、機器メーカーやソリューション企業へのライセンス提供も進めていく予定です。

アスタリスクは、本技術を通じて、Web を中心とした業務端末の普及と業界全体の DX 推進に貢献してまいります。

以上